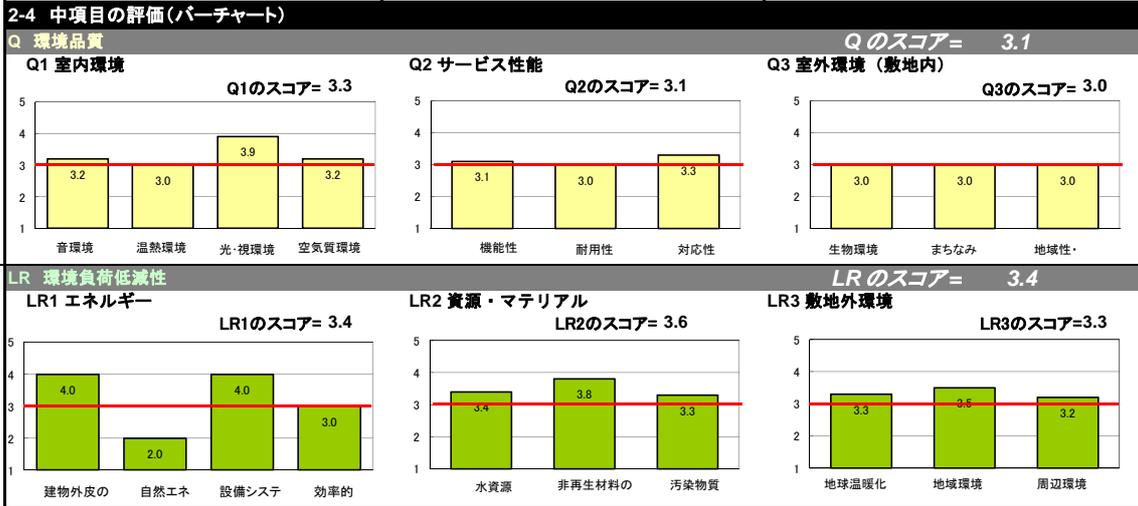
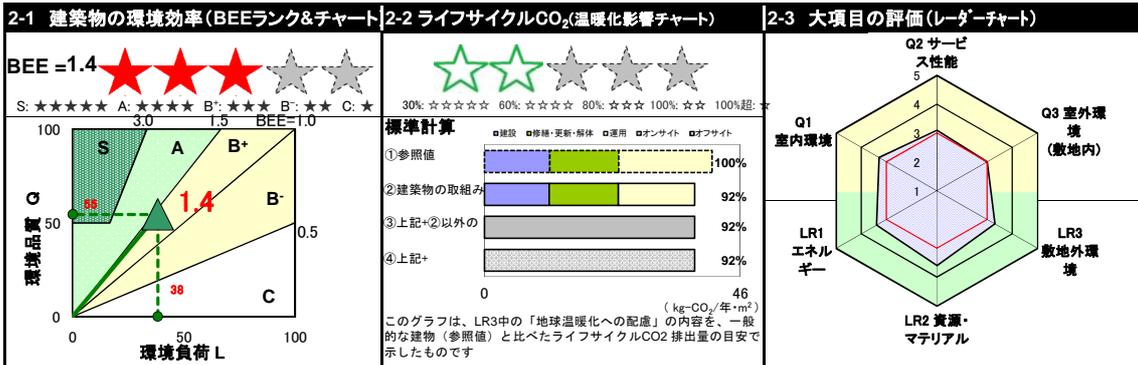


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	刈谷東中学校 新校舎棟	階数	地上2F
建設地	愛知県刈谷市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用区域	平均居住人員	530 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年4月 予定	評価の実施日	2016年3月1日
敷地面積	7,646 m ²	作成者	萩原 義久
建築面積	2,258 m ²	確認日	2016年3月31日
延床面積	4,089 m ²	確認者	萩原 義久



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>11.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	11.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>あいくる材 (桧台形集成材)</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	あいくる材 (桧台形集成材)
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	あいくる材 (桧台形集成材)				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
2.2 部品・部材の耐用年数								
2.4 信頼性								
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	3.0
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.83		4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				2.0	0.20	-	-	2.0
3 設備システムの高効率化								
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI _m 値 ≤ 0.9		4.0	1.00	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	3.0
集合住宅の評価				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	3.0
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水		節水コマ、節水便器の採用		4.0	0.40	-	-	4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用								
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	3.0
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.0	0.07	-	-	3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	高炉セメントノ基礎		5.0	0.20	-	-	5.0
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自			3.0	0.20	-	-	3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05	-	-	3.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体と仕上げの別が容易、仕上材に天然素材を採用		5.0	0.24	-	-	5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		仕上材用接着剤は全てF4☆、木製建具・木部への塗装は無公害		5.0	0.32	-	-	5.0
3.2 フロン・ハロンの回避								
1 消火剤				2.5	0.68	-	-	2.5
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-	-	-
3 冷媒				2.0	0.50	-	-	2.0
				3.0	0.50	-	-	3.0
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:92%		3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止								
燃焼機器を使用しない				5.0	0.25	-	-	5.0
2.2 温熱環境悪化の改善								
				3.0	0.50	-	-	3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制								
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
2 汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25	-	-	3.0
3 交通負荷抑制	独自	駐車場の確保、利用者別駐車場の確保		4.0	0.25	-	-	4.0
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	2.0
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止								
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	3.0
2 振動	独自			-	-	-	-	-
3 悪臭				3.0	0.50	-	-	3.0
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制		防砂林、砂塵の発生しにくい舗装		3.0	0.60	-	-	3.0
2 砂塵の抑制				4.0	0.20	-	-	4.0
3 日照障害の抑制				3.0	0.20	-	-	3.0
3.3 光害の抑制								
				3.7	0.20	-	-	3.7
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		チェックリストの一部該当、広告物照明を行っていない		4.0	0.70	-	-	4.0
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	3.0

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

刈谷東中学校 新校舎棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:11.77%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	3.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	あいくる材(桧台形集成材)

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$ の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 利用者が使いやすい2階建て、口の字型の平面計画。 周辺地域への圧迫感を低減するため建物高さを抑えつつ、室内環境を向上するため建物中央のトップライトを配置し昼光を有効利用した計画とした。 自然素材を採用したぬくもりのある内装仕上で、生徒たちが快適に学習できる校舎とした。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 トップライト、大きな窓のある計画による昼光活用と庇、カーテンによるグレア制御。 スラブ厚300mmにフローリング15mmの直貼りとし、界床遮音性能に配慮。 快適な学習空間とするため、普通教室等の照明は500lx以上、750lx未満にて計画。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 清掃用具スペース、SKの十分な確保に加え、設備メンテナンススペースを共用部に配置するなど維持管理の容易な計画。 災害への対応として、通信・情報設備を多重化。 ゆとりのある階高構成や、壁長さ比0.3未満の空間の自由度の高い計画。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物高さを抑え圧迫感を軽減し、町並みに配慮。 植栽による周辺地域の景観への配慮。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 トップライトによる昼光活用やLED照明採用等による消費エネルギーの低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマや節水型便器の採用等、節水に配慮した計画。 全ての壁面を乾式壁とした、解体時に躯体と仕上材の分別が容易で部材の再利用可能性の高い計画。 木質系仕上の一部にはあいくる材を採用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 大気汚染防止への配慮として燃焼機器を使用していない。 駐輪場の確保や職員、来客、配膳車の駐車場を分割し適切なスペースを確保すると共に、歩車分離によって交通負荷に配慮。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

